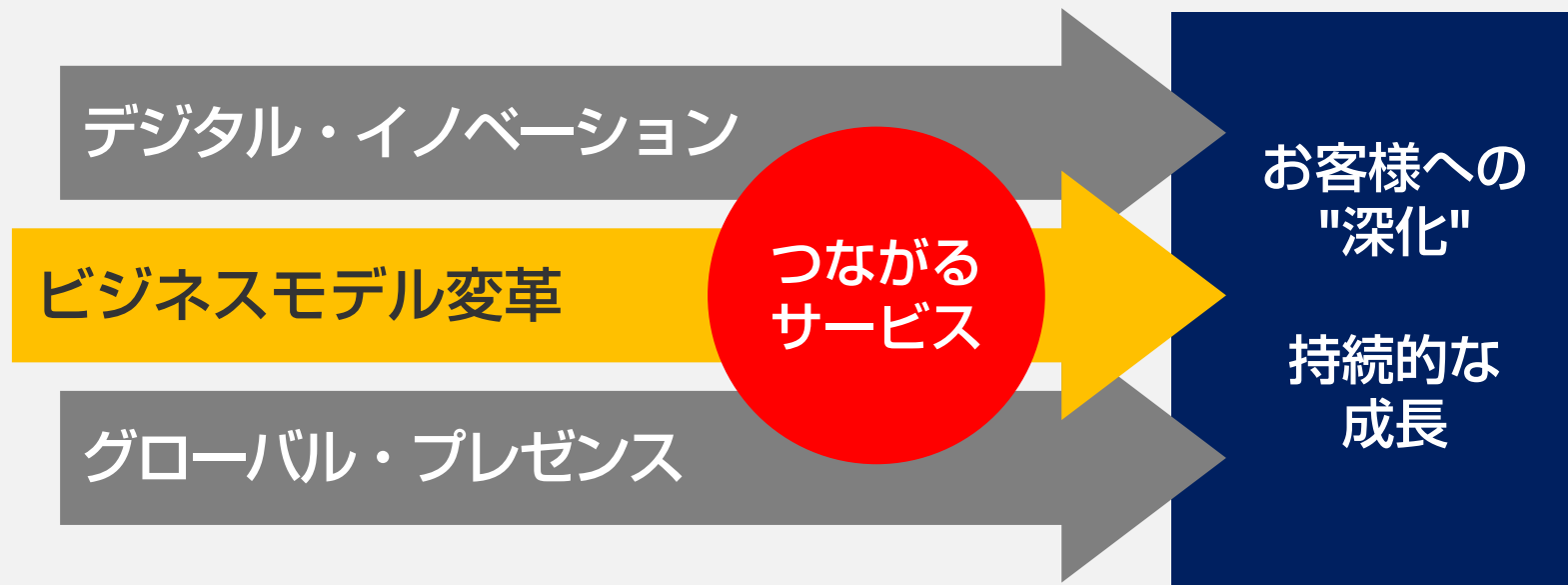


経営方針

2016年度 進捗レビュー

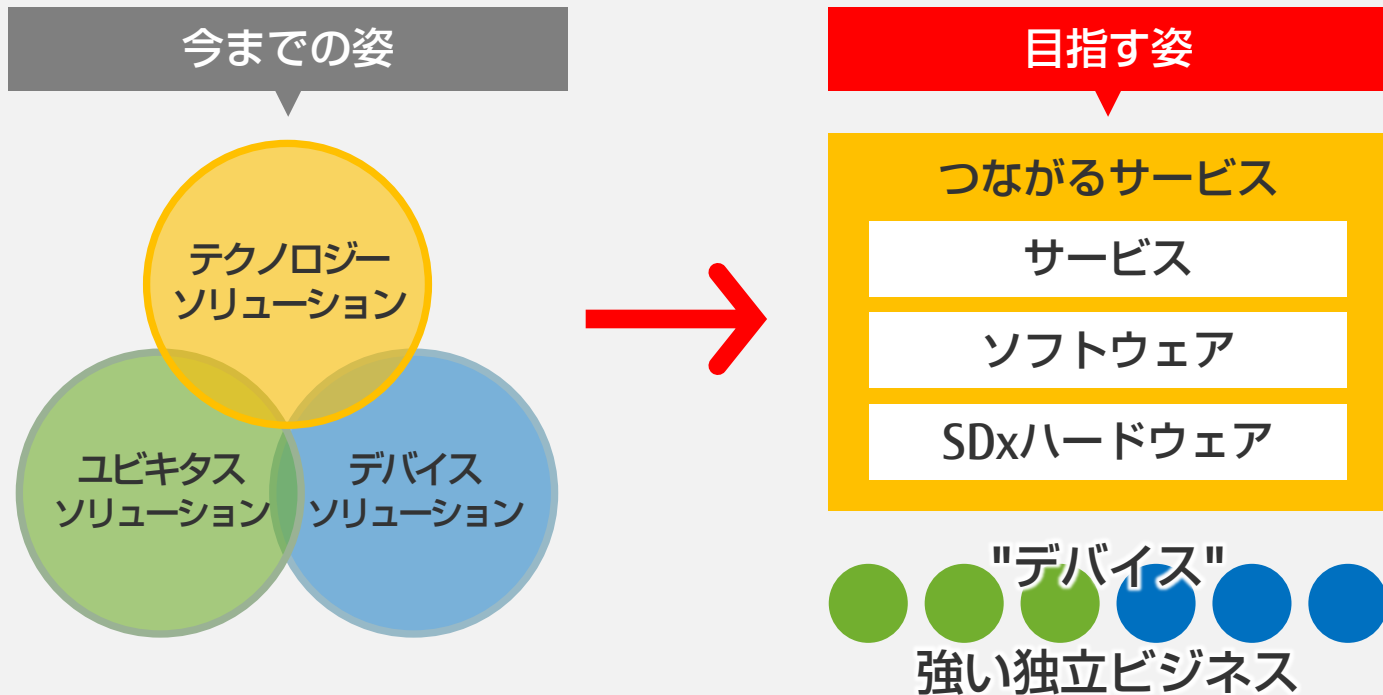
2016年10月27日
富士通株式会社

推進中の経営方針 (2015年度発表)



目指すビジネスモデル

テクノロジーソリューションへの経営資源集中



連結業績目標 - 目指す姿

営業利益率

→ 10% 以上

フリー
キャッシュフロー

→ 1,500 億円 以上

自己資本比率^{*}

→ 40% 以上

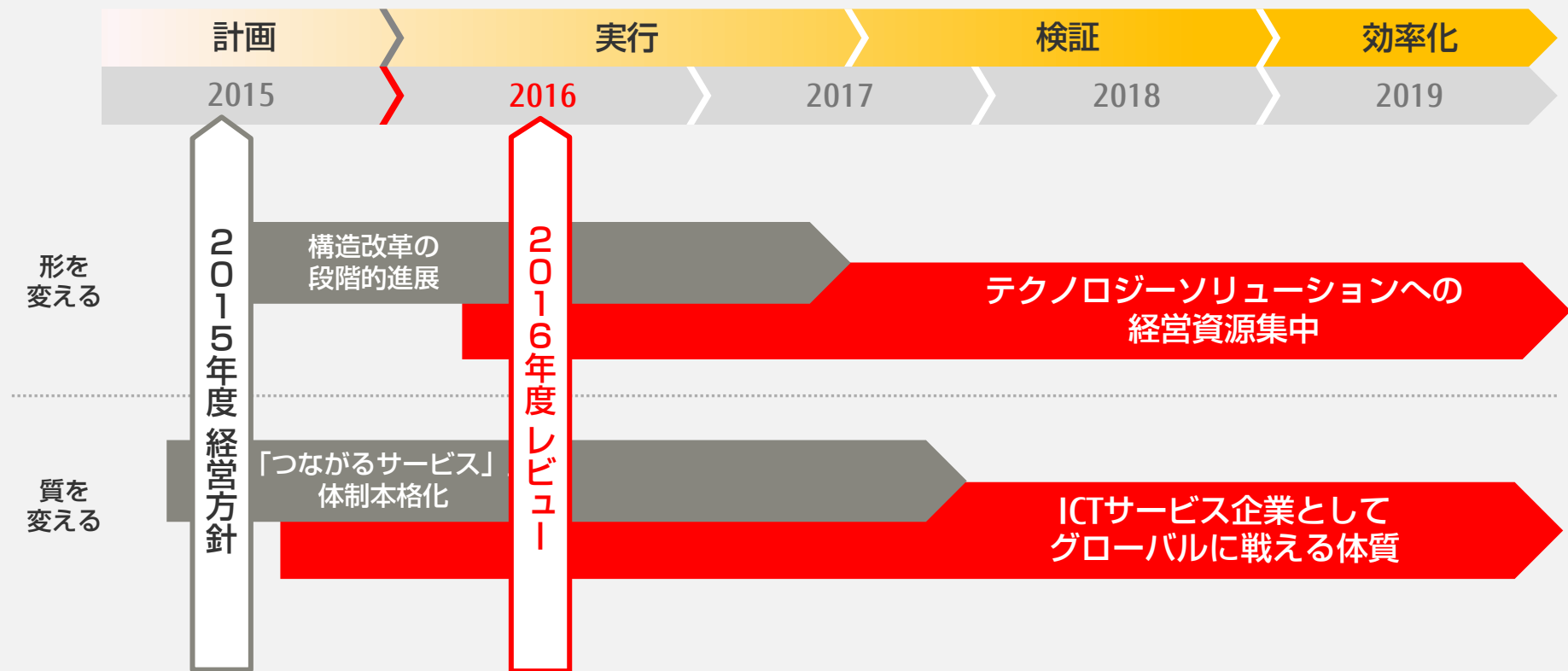
海外売上比率

→ 50% 以上

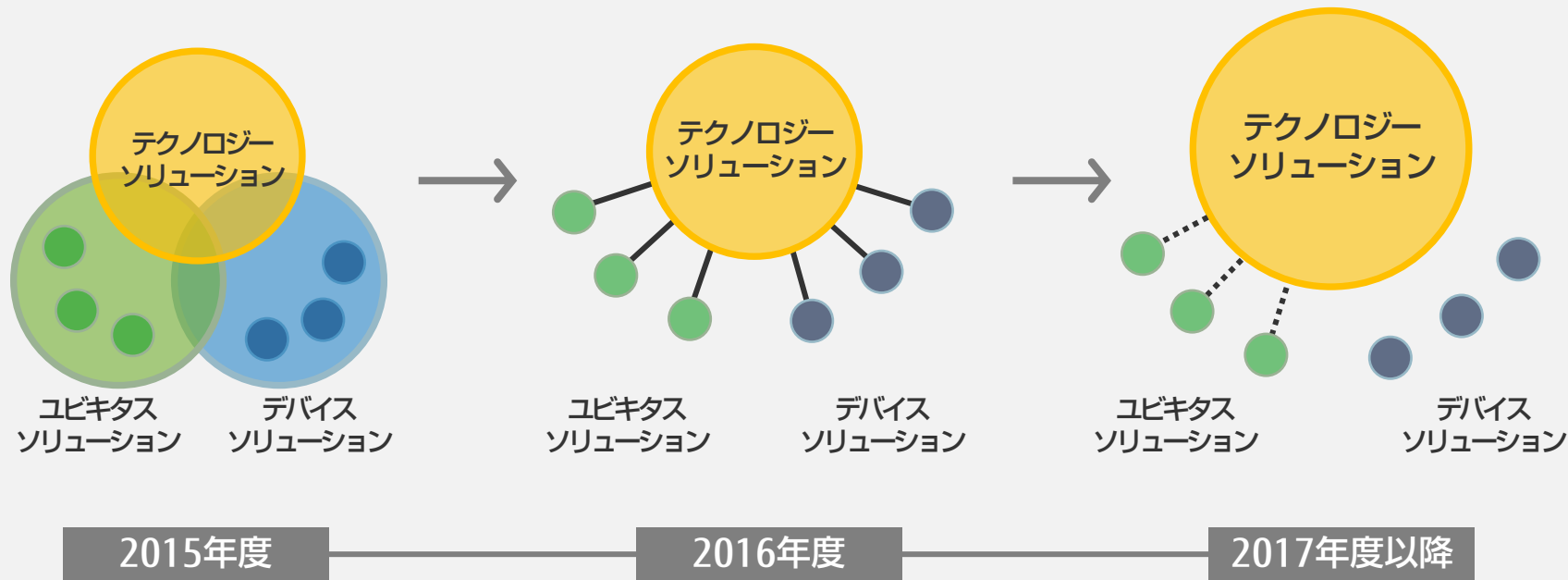
^{*}自己資本比率：親会社所有者帰属持分比率

2016年度レビュー

経営変革のアウトライン

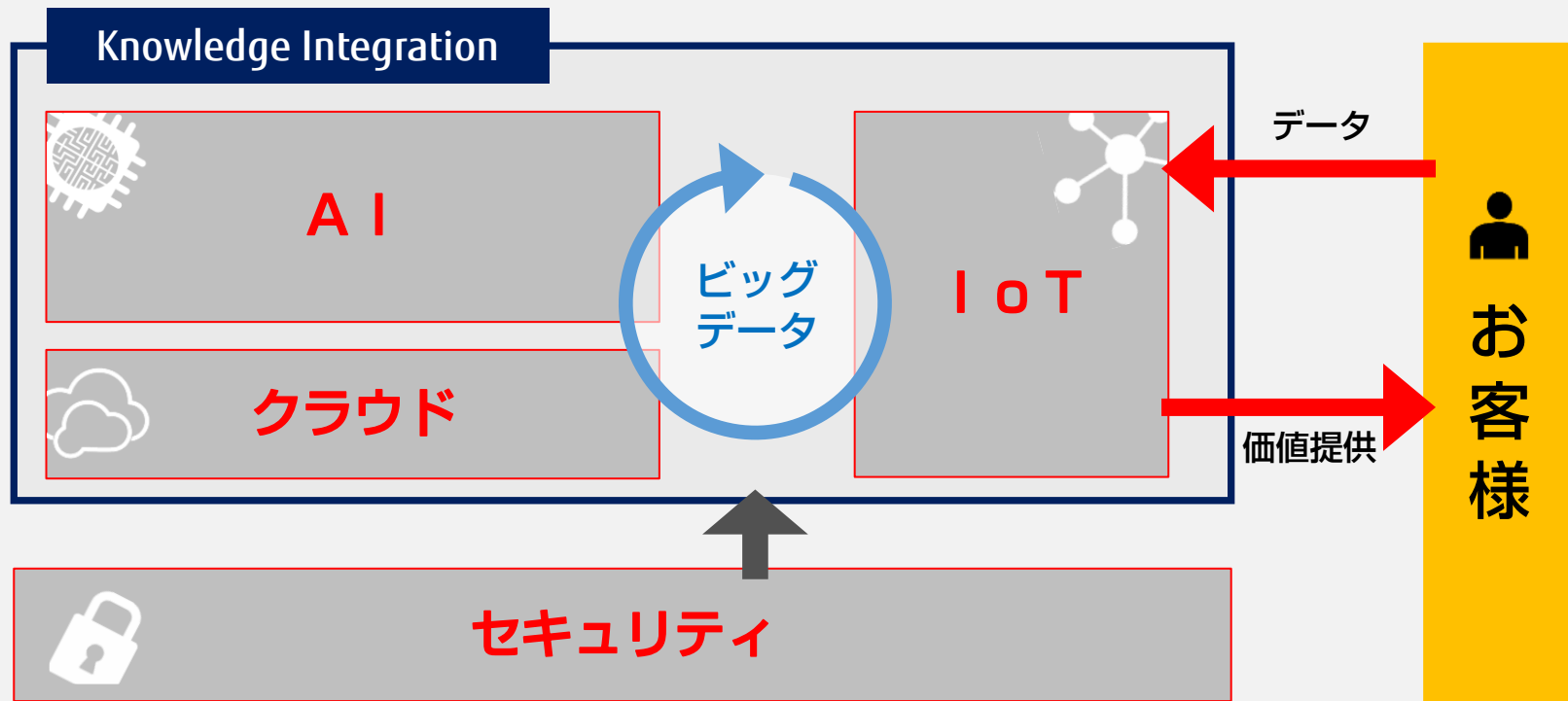


構造改革の進展（形を変える）

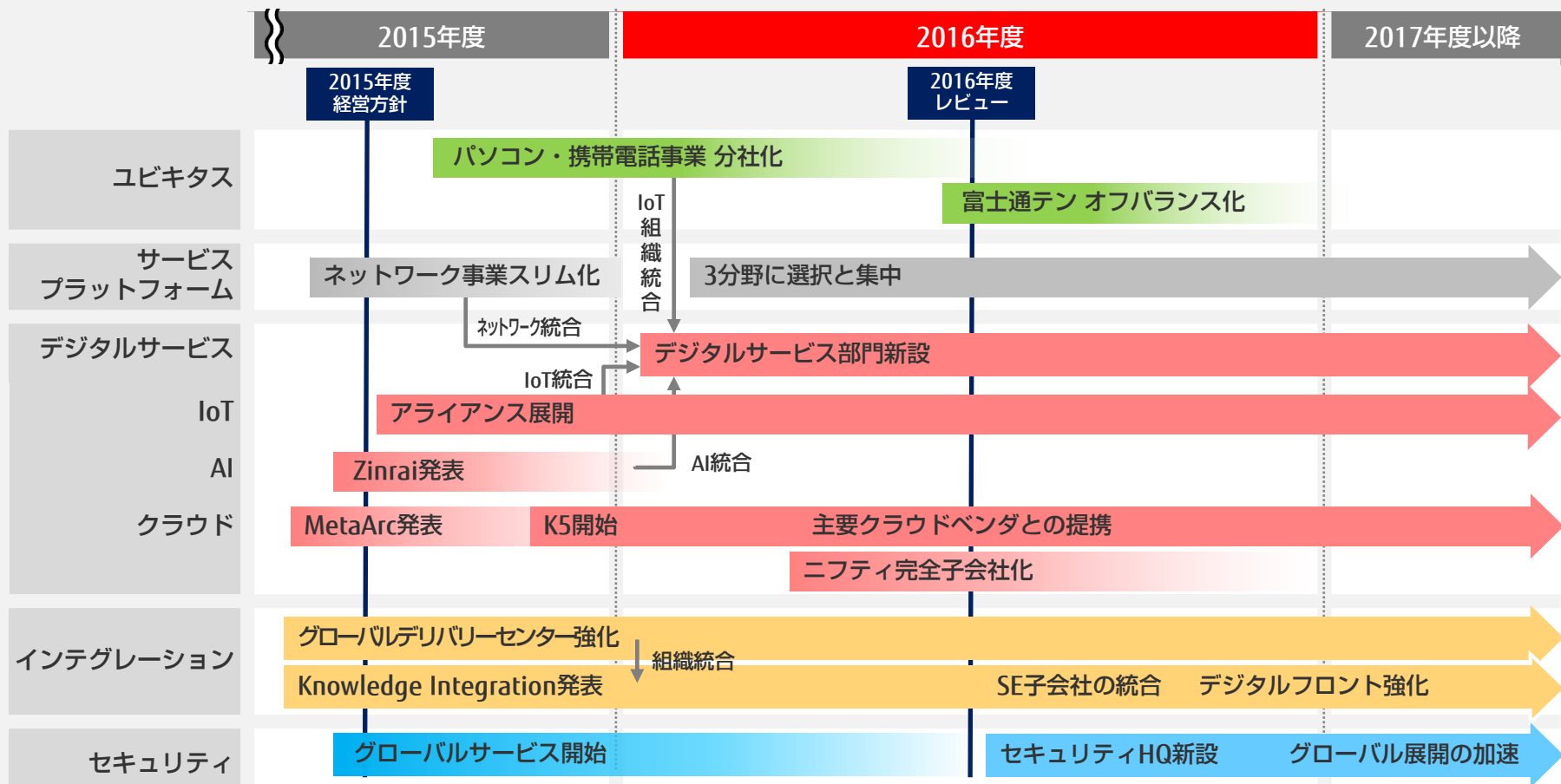


ユビキタス・デバイスは、強い独立ビジネスに向けて、
あらゆる選択肢を今後も継続検討

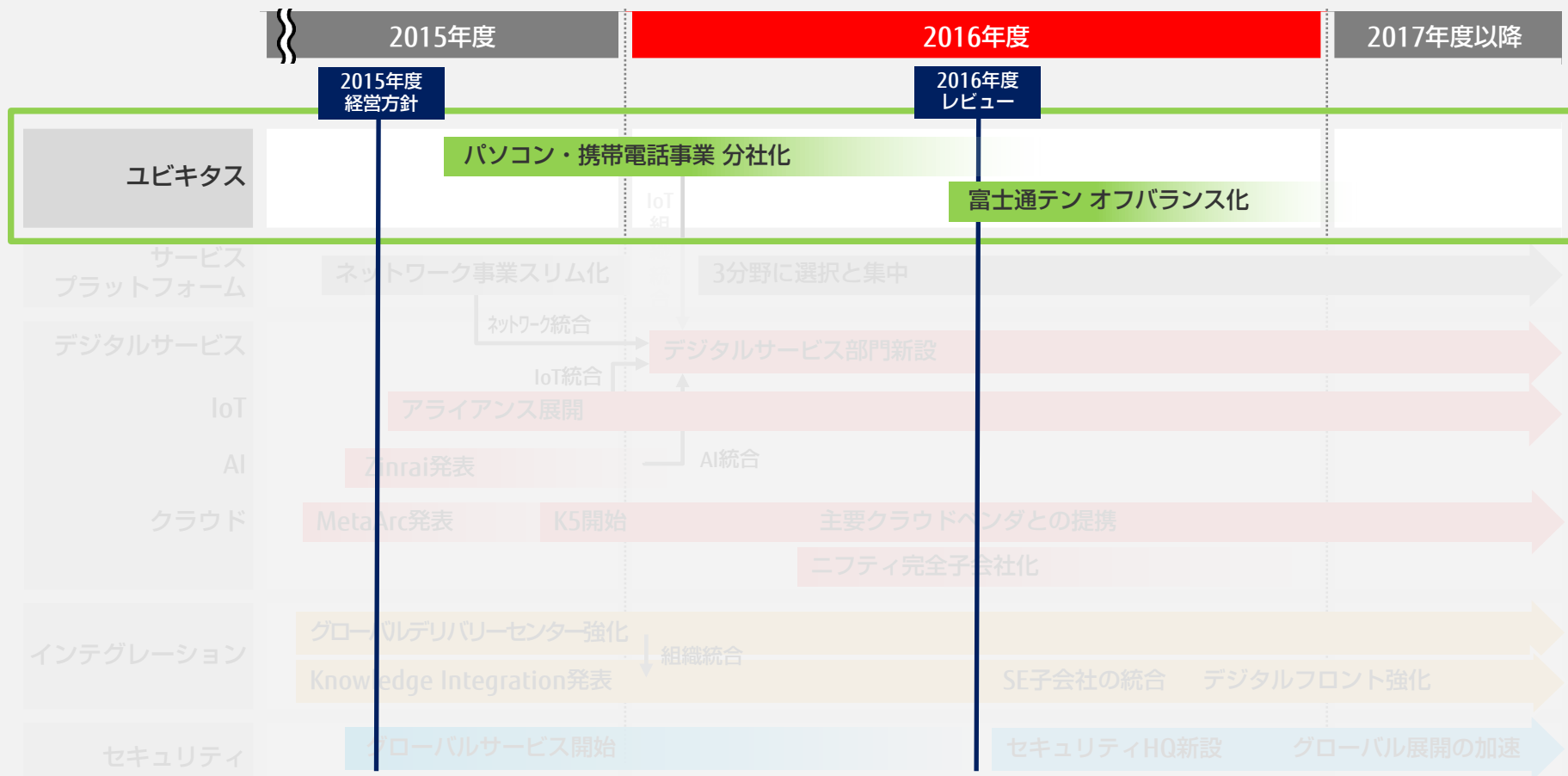
進めている「つながるサービス」 （質を変える）



「つながるサービス」へのデジタル化展開



「つながるサービス」へのデジタル化展開



ユビキタスの独立ビジネス化

パソコン・携帯電話事業

2016年2月に分社化



パソコン



富士通
クライアント
コンピューティング



携帯電話



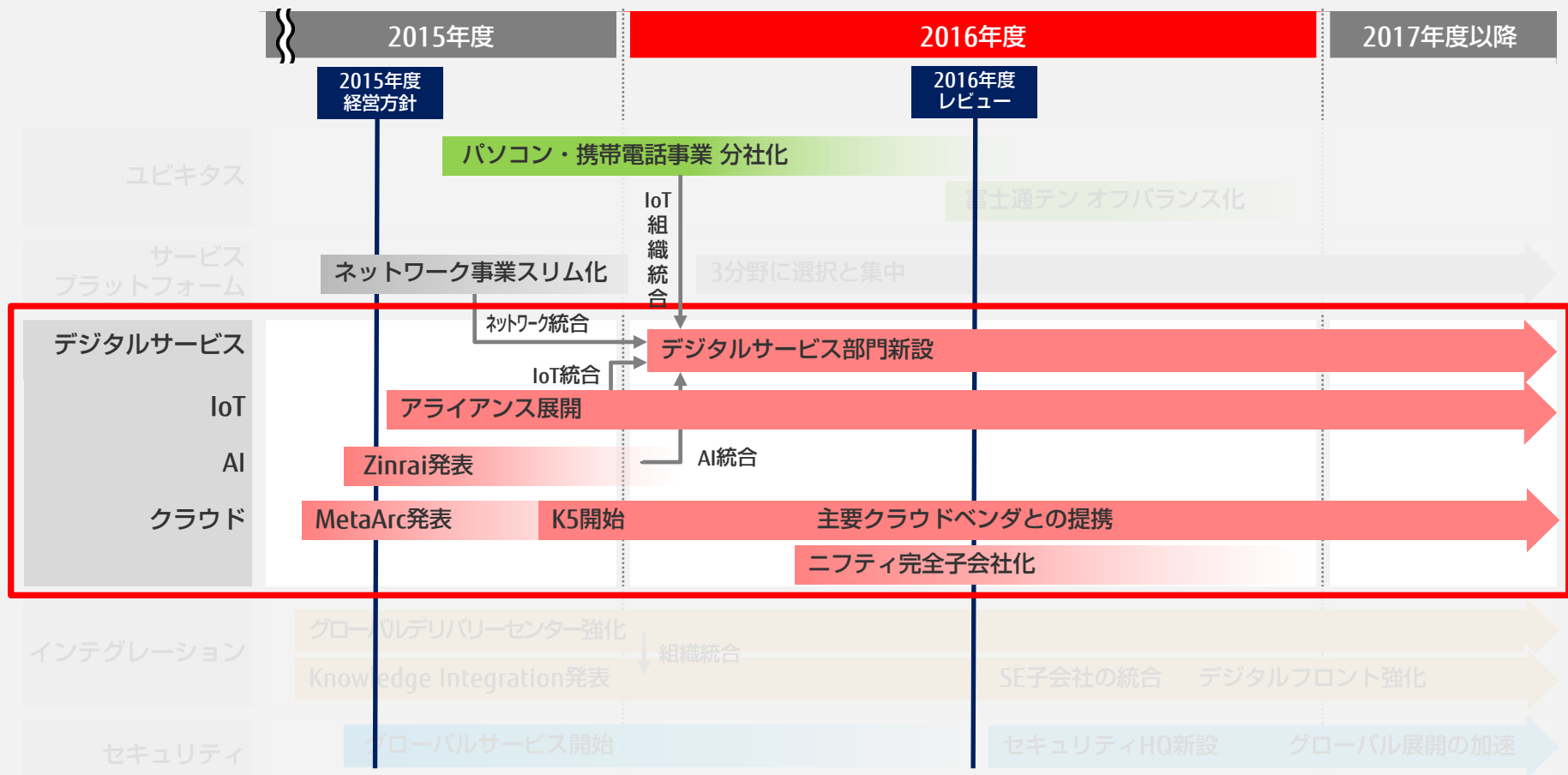
富士通
コネクテッド
テクノロジーズ

富士通テン



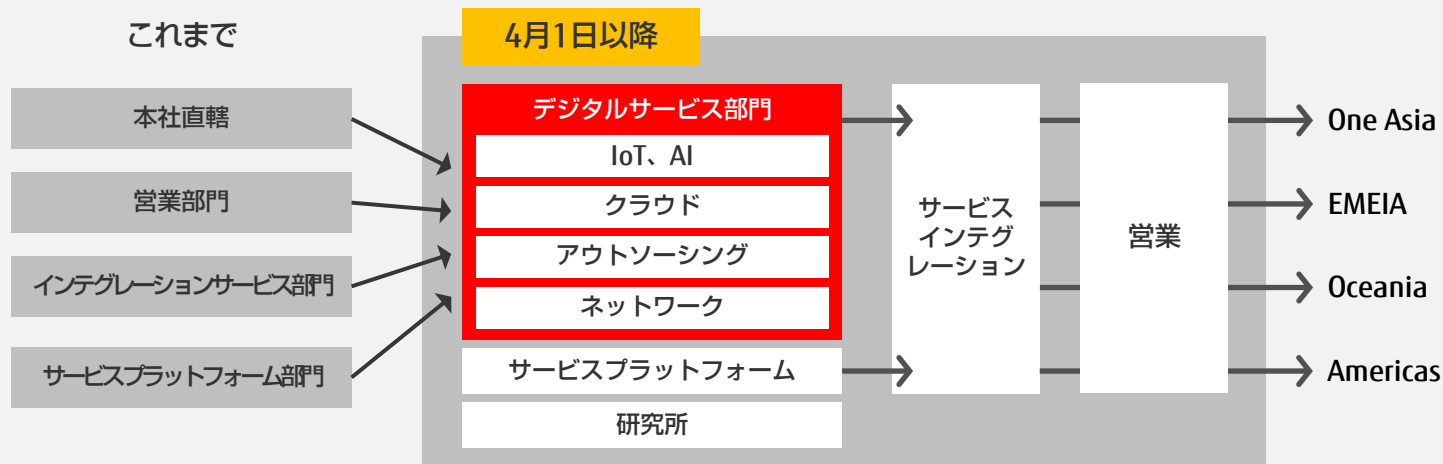
デンソー様、トヨタ自動車様
との間で「資本構成変更」
に基本合意（2016年9月）

「つながるサービス」へのデジタル化展開



デジタルサービスを強化する統合組織の新設

- 社内に分散していたデジタルサービスに必須な事業を統合する組織を新設
- 先進技術(IoT/AI/クラウド等)を整備し、簡単・安全・便利な「場」を実現するデジタルビジネスプラットフォーム「MetaArc」を提供
- お客様のエコシステム形成を実現する新たな関係創りとユニークな価値の創出

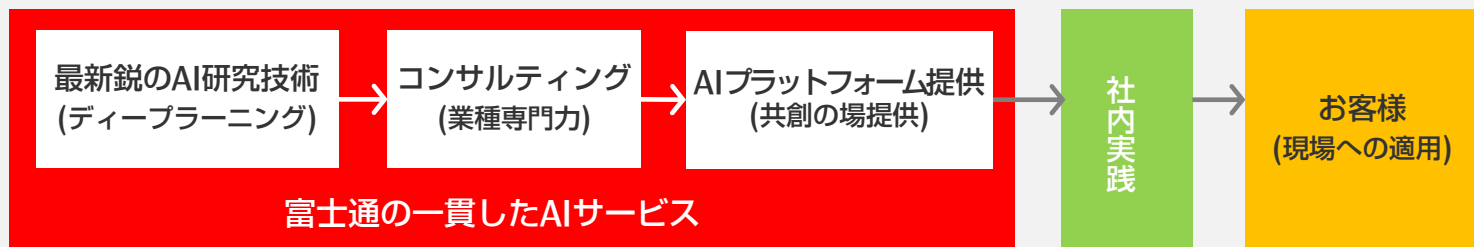


- 「つながるサービス」の核となるデータ集積の最重要機能
- IoTベースのデジタル革新を共通プラットフォームとしてグローバル展開
- 300を超える実証プロジェクトや外部アライアンス等を通して、ビッグデータ確保と知見蓄積

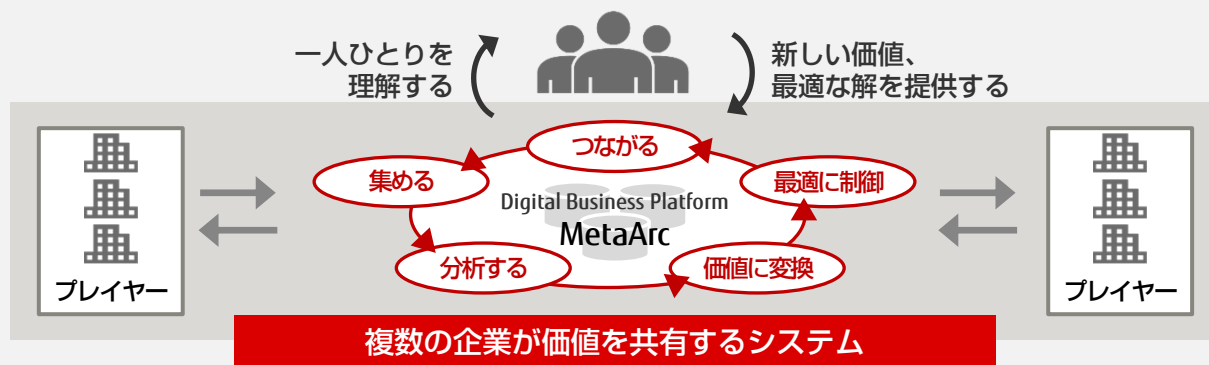
IoTベースのデジタル革新サービス



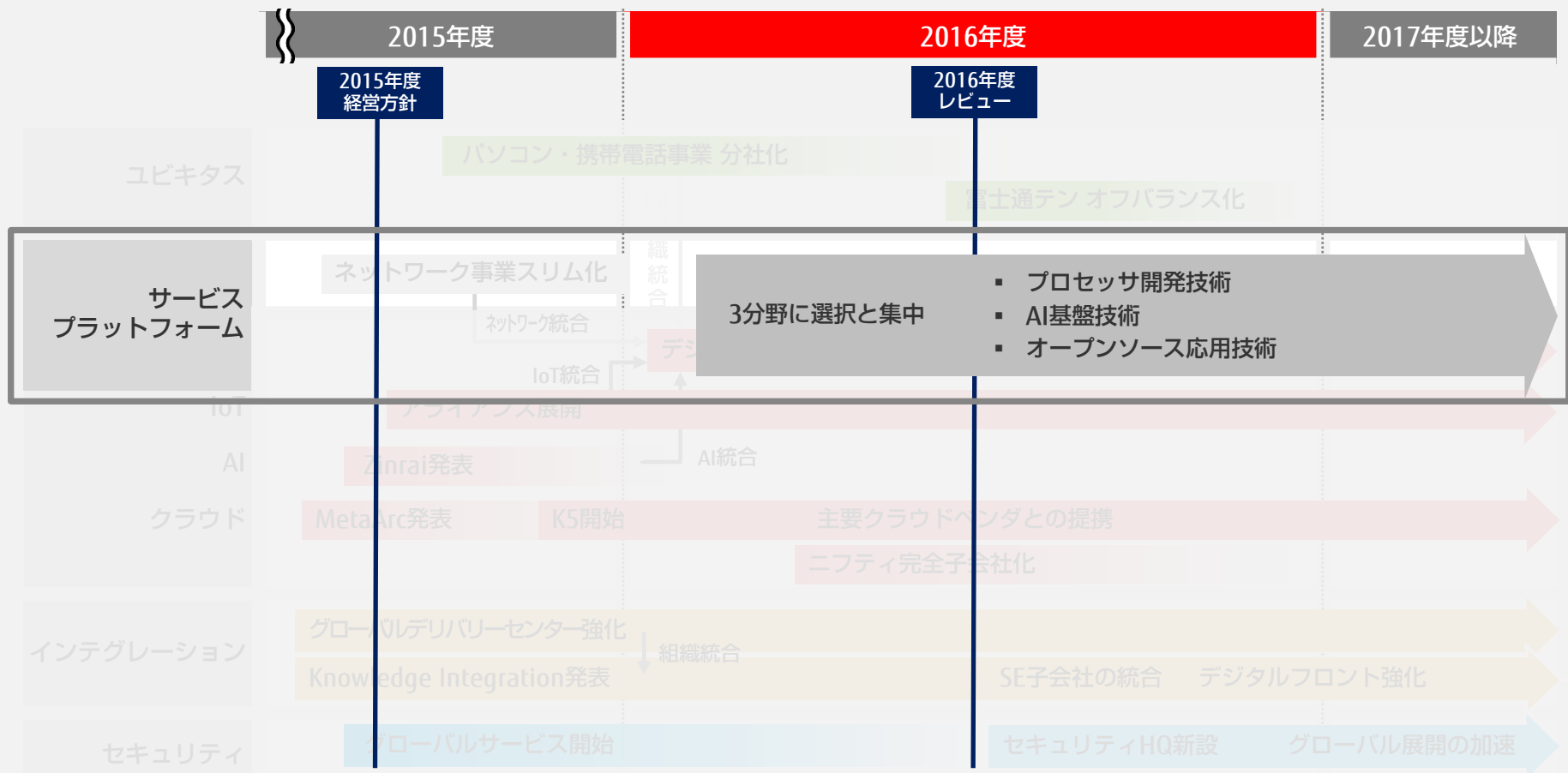
- 富士通のAI技術体系「Human Centric AI Zinrai」を発表：2015年11月
- 並列化技術など最新AIエンジンを搭載したAIプラットフォームをMetaArc上で提供
- 富士通の事業全体をAI活用で自動化するとともに、AI専門人材を強化：2018年度 1,500名



- OSSベースのクラウド「K5」を開かれた競争環境の中で磨き上げていく
- 世界統一のクラウド基盤として、日本、次いで欧州を皮切りにグローバルに展開
- 有力なグローバルパートナーとのアライアンスによりMetaArcを強化



「つながるサービス」へのデジタル化展開



デジタル革新を支える基盤テクノロジーの強化

- 
- 世界トップのハードウェア技術により、膨大なデータの高速処理が求められるデジタルサービスの競争力を向上
 - 高度なディープラーニングを実現する先端アルゴリズムや独自プロセッサの開発を強化
 - オープンソースを全面的に活用し、グローバル標準のセキュアな基盤を提供

集中する3分野



プロセッサ開発技術

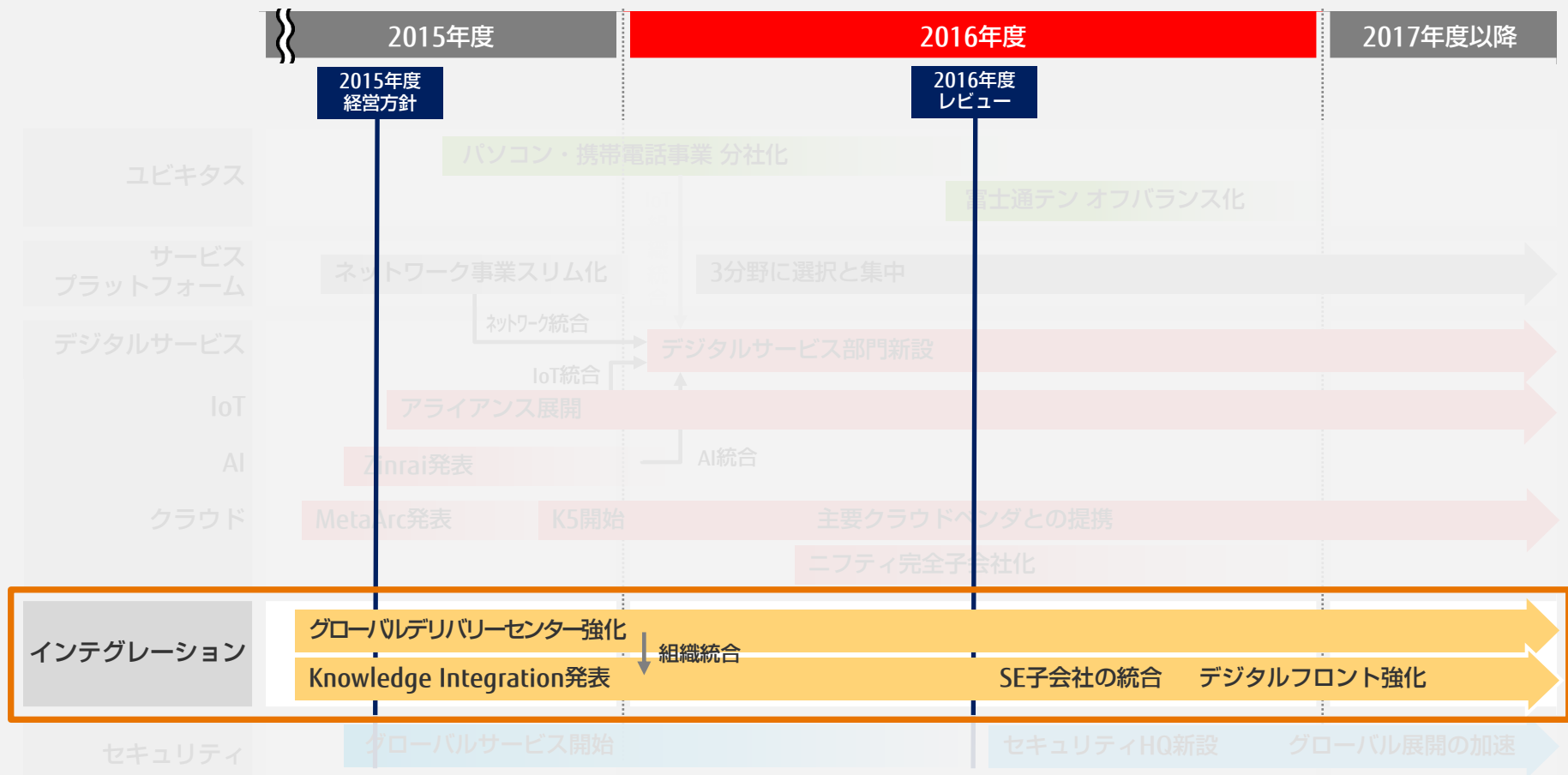


AI基盤技術



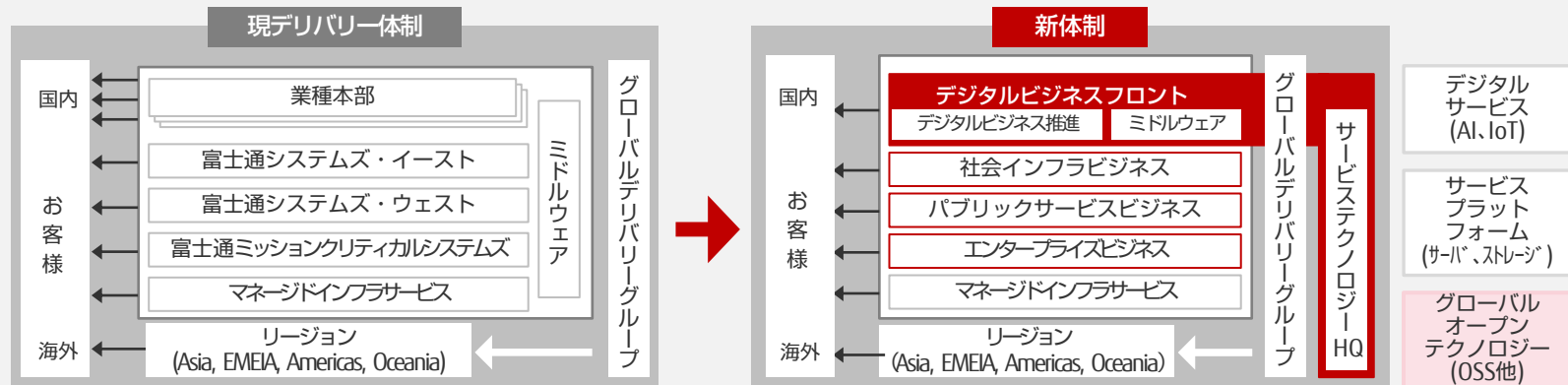
オープンソース応用技術

「つながるサービス」へのデジタル化展開

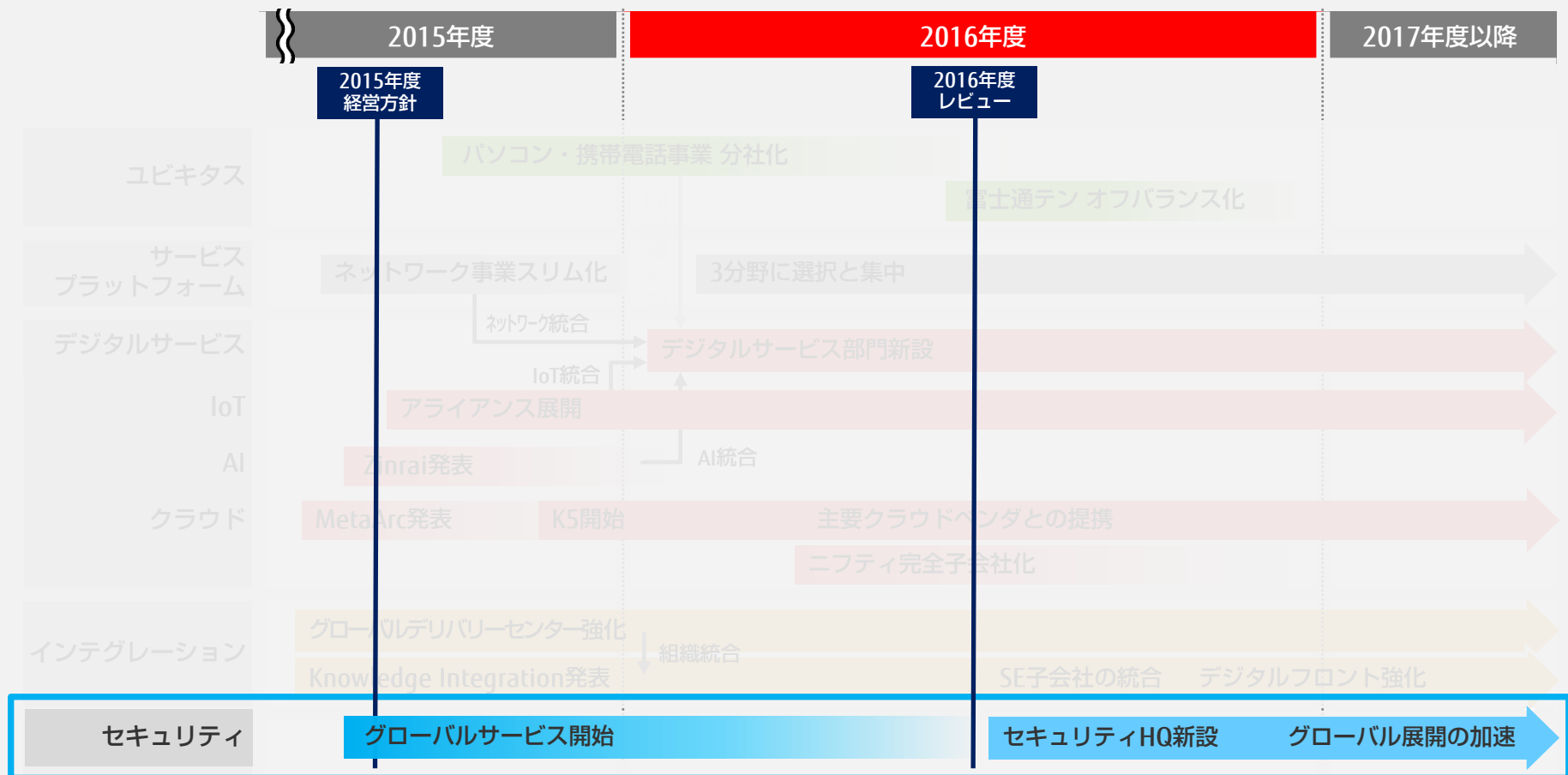


SEリソース集中によるデジタル革新の加速

- 主要SE子会社の本体統合により専門力を強化、デジタル革新を加速
- フロント組織新設により、デジタル化に対応した新ビジネス創出強化
- サービステクノロジーHQを新設し、全社のデジタル技術を集約、グローバルにフィールドをサポート



「つながるサービス」へのデジタル化展開



統合セキュリティ体制の発足

- お客様の事業継続を支えるセキュリティサービスに注力
- 長年蓄積したネットワーク技術にAIを応用し、検知から切離しまでを瞬時に実現
- セキュリティHQを新設し、グローバルに統合されたサービスを展開

お客様の
資産を守る

検知 → 状況判断 (AI) → 切離し (SDN)

お客様の
耐性強化

診断 → コンサル → 強化サービス

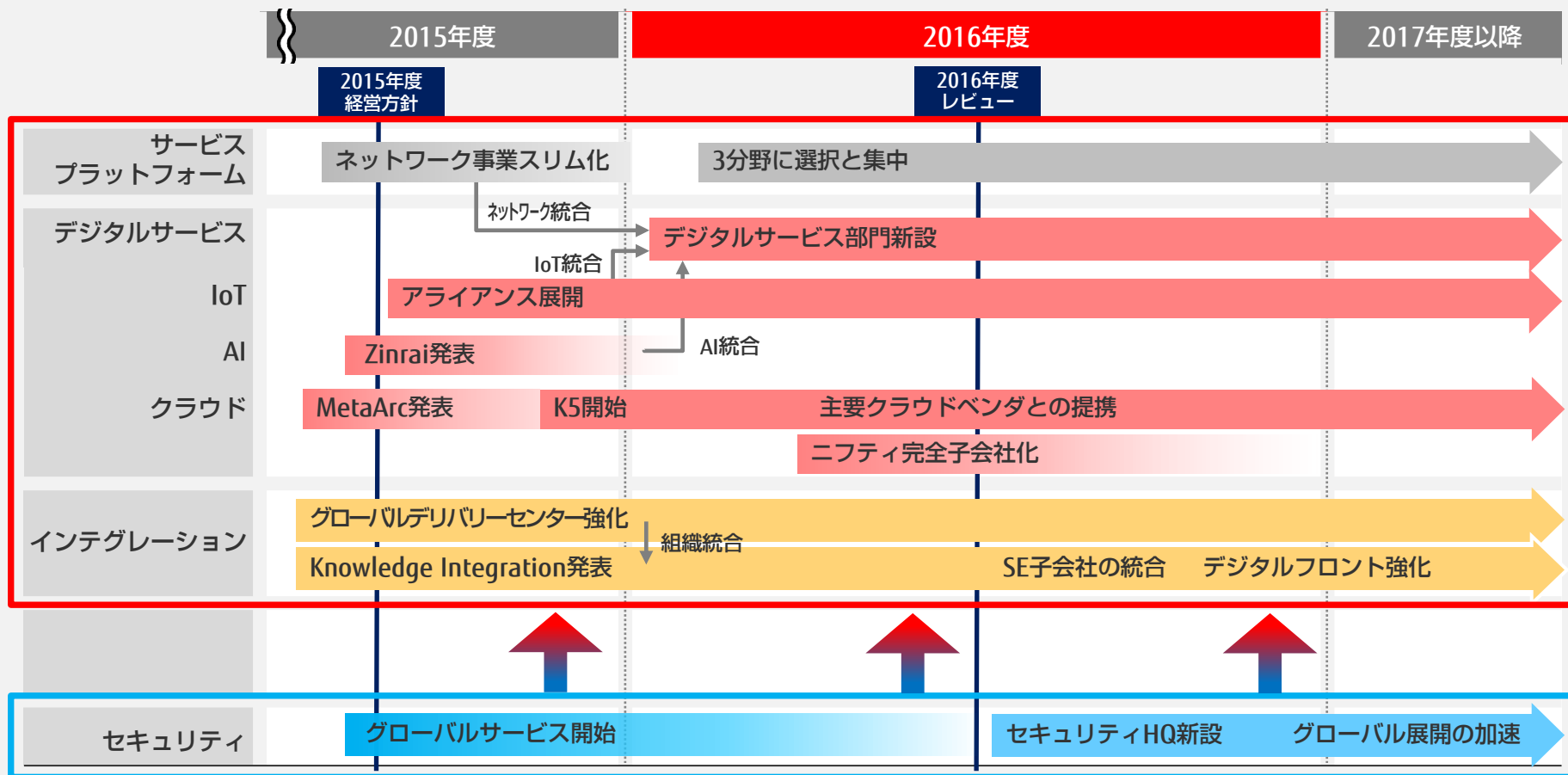
お客様

被害の極小化

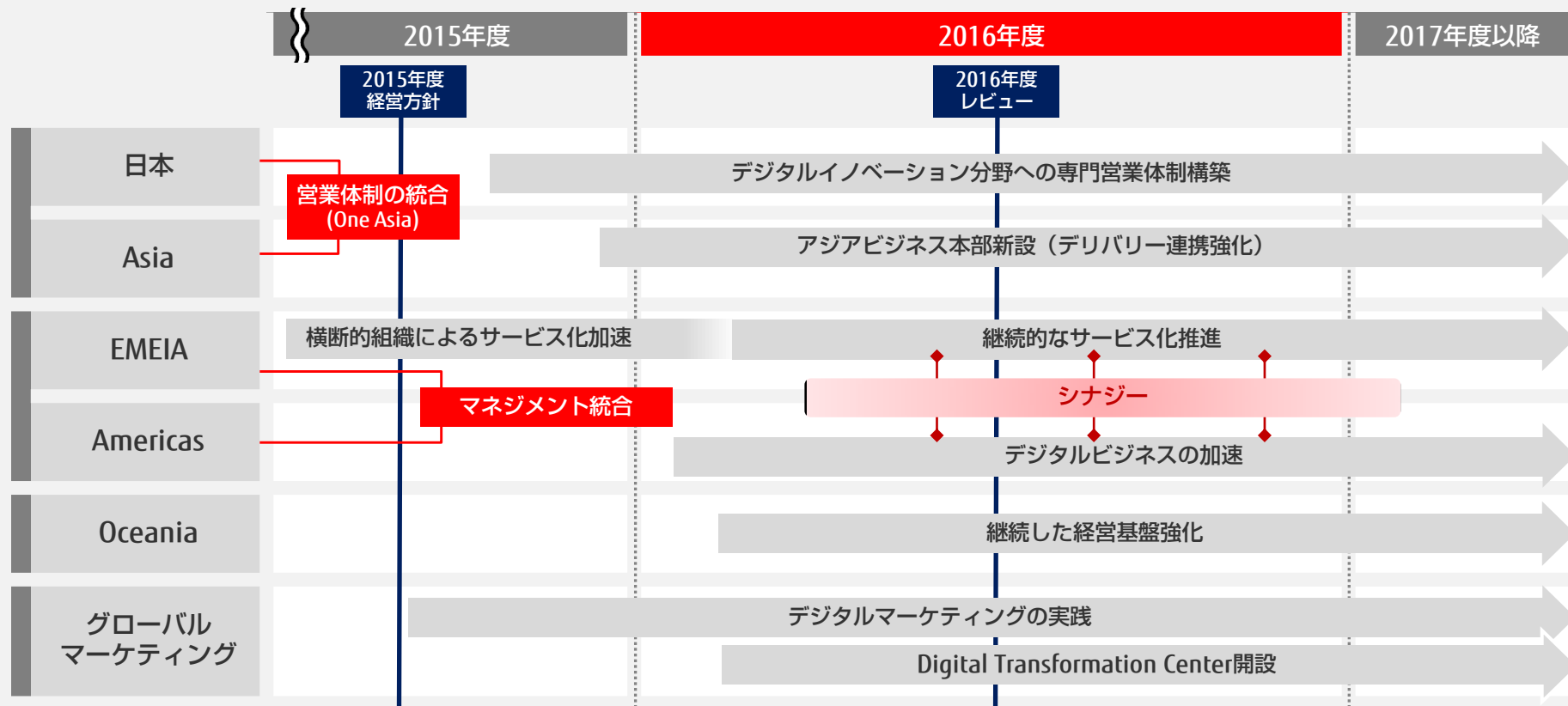
組織耐性の向上

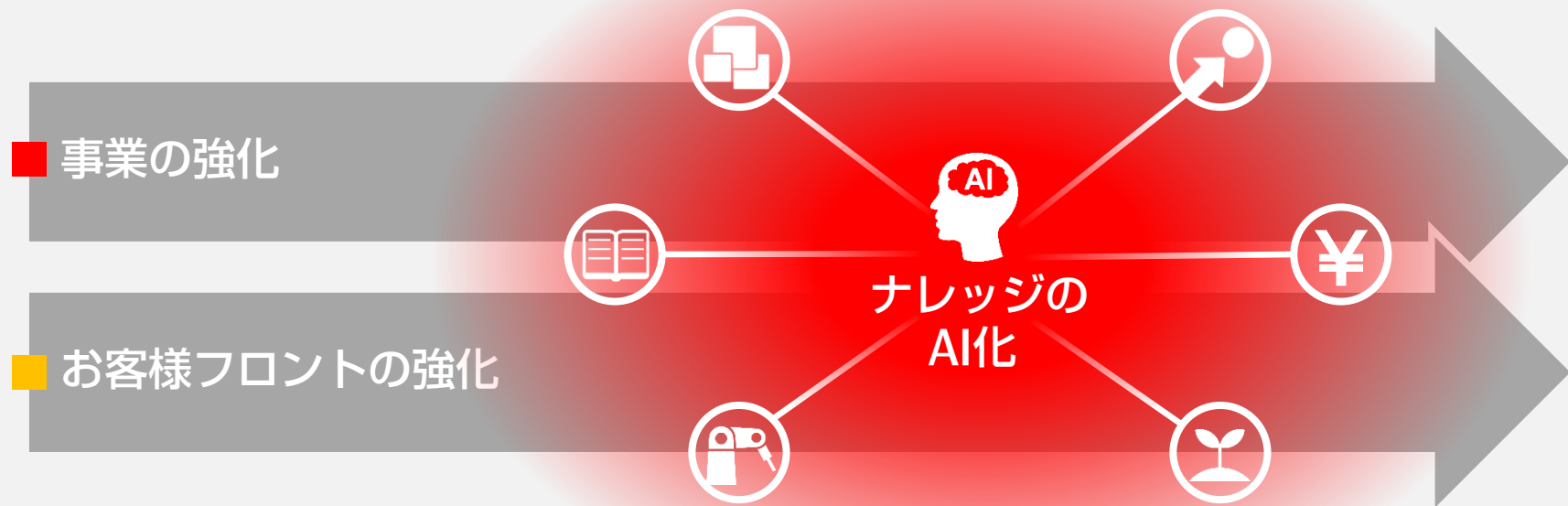
事業継続

「つながるサービス」へのデジタル化展開



お客様への深化に向けたフロント強化





コストダウンの進捗

全社横断プロジェクトによるコスト競争力の強化

2015年度
経営方針

2016年度
までの累計

オフショアの徹底活用

→ 300億円 削減（3年累計）

100億円

社内全システムのK5移行

→ 350億円 削減（5年累計）

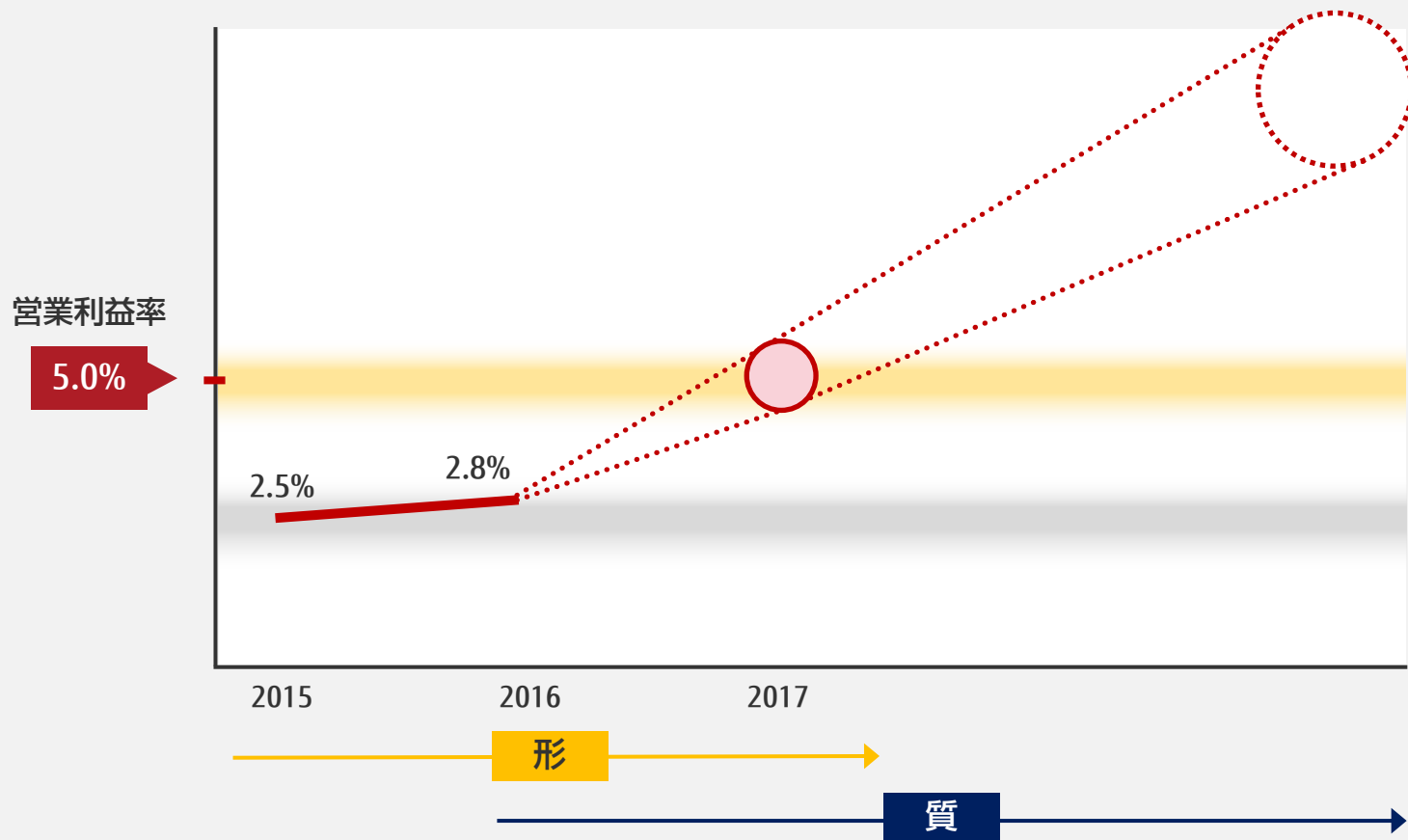
10億円

全社横断での
コスト削減プロジェクト

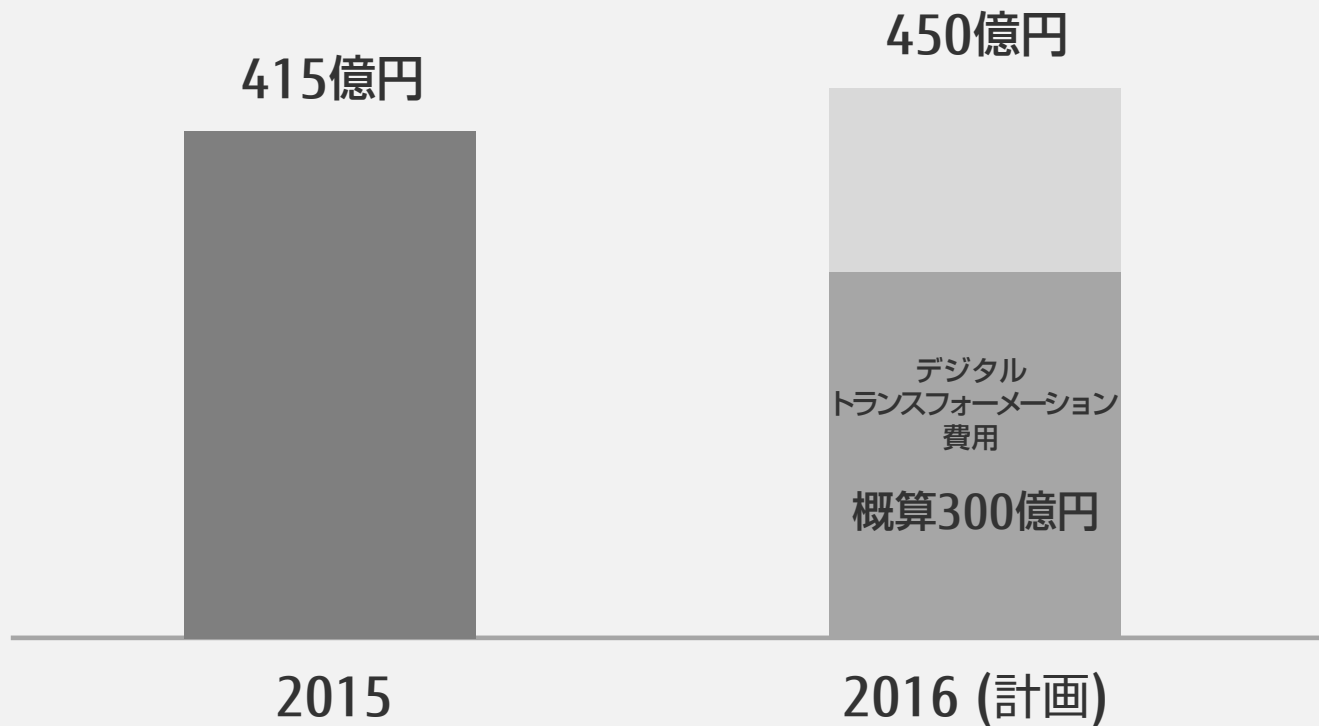
→ 400億円 削減（3年累計）

250億円

目標達成に向けて

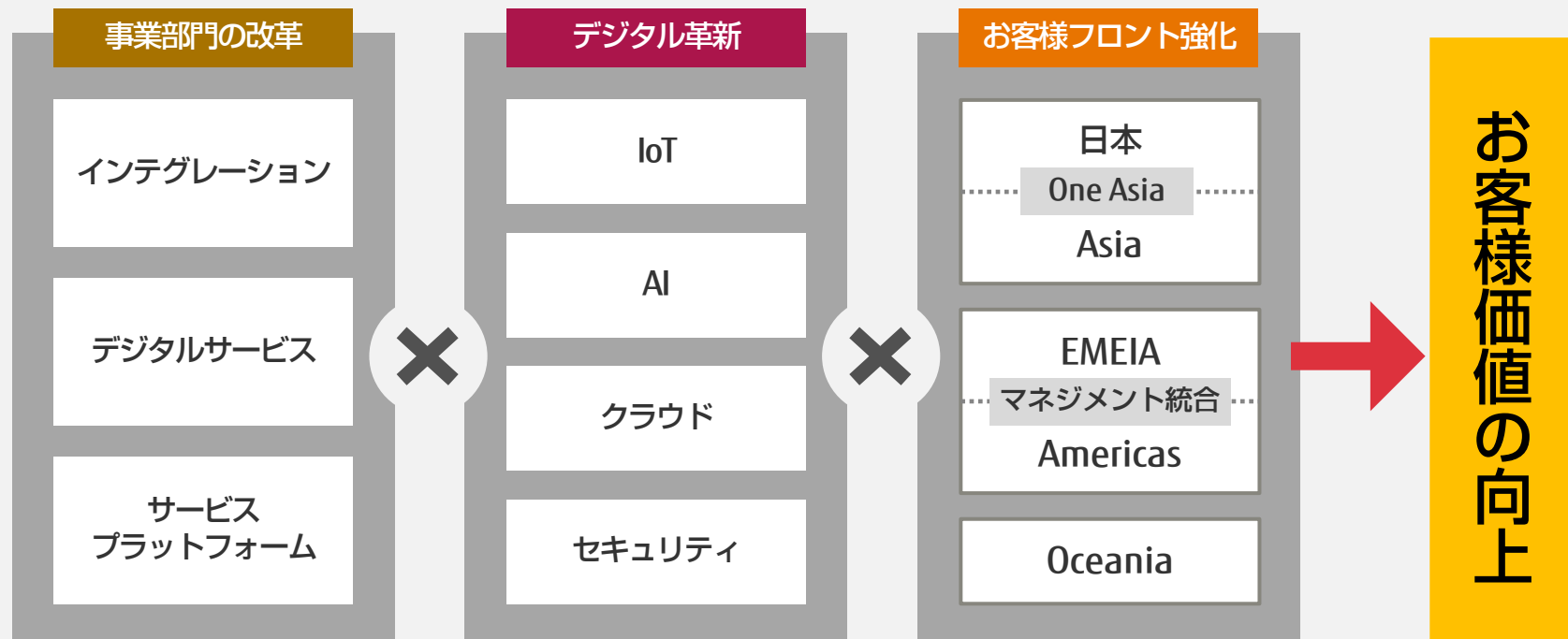


ビジネスモデル変革の費用の内訳



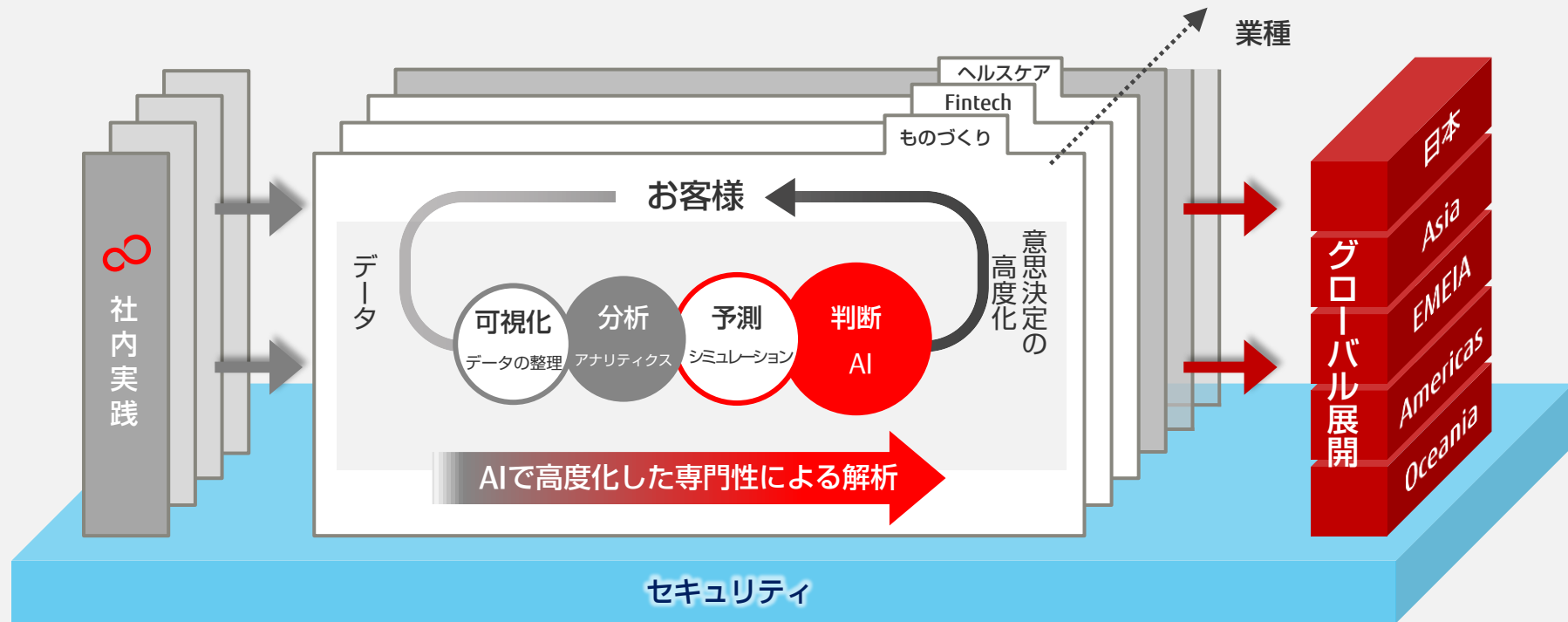
経営改革のマトリクス

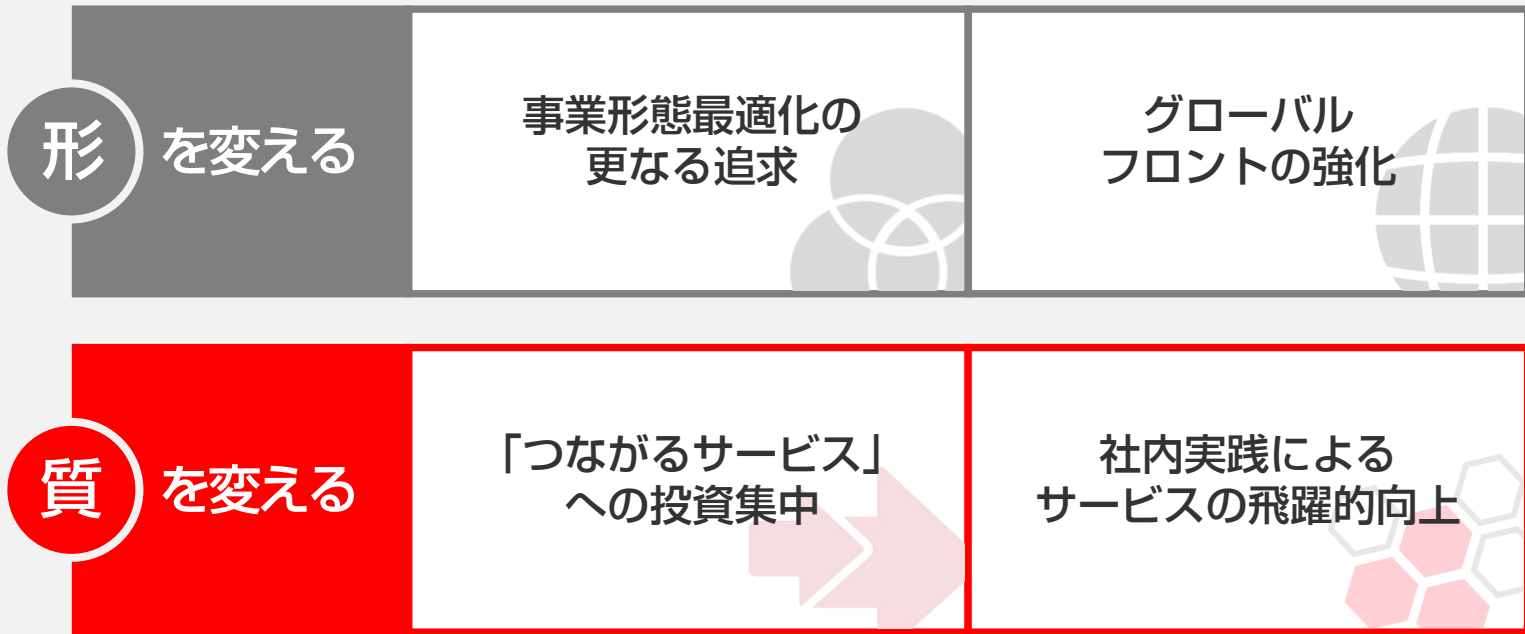
社内実践を積み重ね、お客様へのコンサル・デリバリー能力を強化

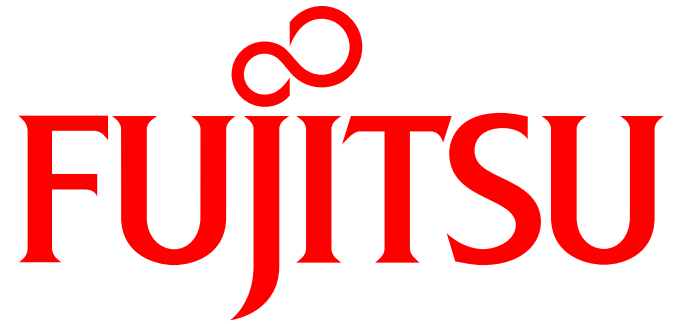


富士通が目指すお客様価値

多様な専門性をAIで高度化し、高セキュリティに価値を創出







shaping tomorrow with you

免責事項

このプレゼンテーション資料、及びミーティングで配布されたその他の資料や情報、及び質疑応答で話した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により実際の結果・業績または事象と異なることがあります。

実際の結果・業績または事象に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

（但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません）

- 富士通の提供するサービスまたは製品にとって主要な地域（日本、EMEIA、アメリカ、アジア、オセアニアなど）のマクロ経済環境や市況動向。中でも当社顧客の I T 支出に影響を及ぼすような経済環境要因。
- 急速な技術変革や顧客需要の変動。及び富士通が参入している I T 市場、通信市場、電子デバイス市場での激しい価格競争。
- 他社との戦略的提携や、合理的条件下での他社との取引を通じて、富士通が特定のビジネスから撤退し、関連資産を処分する可能性。およびこのような撤退・処分から発生する損失の影響。
- 特定の知的財産権の利用に関する不確実性。特定の知的財産権の防御に関する不確実性。
- 富士通の戦略的提携企業の業績に関する不確実性。
- 富士通の保有する国内外企業の株式の価格下落が、損益計算書や財政状態計算書などの財務諸表に与える影響。およびこの保有株式の株価下落により発生した富士通の年金資産の評価減とこれを補うために追加拠出される費用の発生による影響。
- 顧客企業の業績不振、資金ショート、支払不能、倒産などに起因する売掛債権の回収遅延や回収不能によって、当社が被る損害の影響。
- 富士通が売上収益及び利益を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動、および富士通が資産や負債を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動により発生する影響（特に、日本円と、ユーロ、英ポンド、米ドルとの間の為替差損益の影響）。